

デジタル教科書を活用した統合的な活動 (SUNSHINE ENGLISH COURSE 3 Program3 A Hot Sport Today)

- ①書く ②協・整 ③タブ ③TV ④Google スライド

【ここがポイント！】

①「デジタル教科書を用いて繰り返し音読する。」

デジタル教科書を活用し、個人で音読する。内容を理解し、メールを書く時に参考となるキーフレーズに気付いたり、メールの構成について考えたりする。

②「メールの内容に対して返信を書く。」

第2学年での既習事項を用いて返信の内容を考えたり、新たに情報を収集してメールの内容を書いたりする。ペアで返信メールを共有することで、相手の表現から学ぶことができる。

【実践の目標】

音読を繰り返し、表現に必要な英文に気付いたり、既習事項を活用したりしてメールの返信を書くことができる。

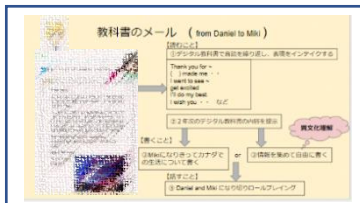
【実際の場面】

1. デジタル教科書を使って音読を繰り返す

音読する際に自分で速度を選択したり調整したりして、新出単語や音のつながりや意味のかたまりを確認したり、メールを書く時に参考となるキーフレーズに気付いたりした。

2. 個人で返信メールの内容を考える

ダニエルが美希に送信したメールの内容や構成を理解して、返信に必要なフレーズを使って返信を書いた。



3. 中間評価をする

作成した返信メールの内容について指導者が評価し、フィードバックを行った。

4. コメント機能やお助けスライドを用いたアドバイスを基に、返信メールの内容を改善する

英文の量や表現を向上させるために、メールの構成に必要な語句や参考となる表現を示し、理解を深めた。

5. ロールプレイで交流する

メールの送信者(ダニエル)と返信者(ミキ)になりきり、ペアでロールプレイを行い、メールの内容を交流した。

6. 相互評価をする

それぞれが書いた返信メールの内容について交流後、相互評価を行った。生徒が提出したメールの内容を指導者が評価した。

7. 表現の共有をする

返信メールの内容や表現に関して参考となる例をスライドに提示し、全体にフィードバックした。

【成果と課題】

【成果】

- 教科書の音読を自分に合ったペースで繰り返し、表現に必要なキーフレーズに気づき、返信の内容を考えることができた。また、返信の内容についても各自で選択するなど、主体的な学習を行うことができた。
- 生徒が作成したメールを交流することで、表現に関して参考となるものについて気づき、英文の量や質の向上を図ることができた。

【課題】

- 返信の内容を考える際に、既習事項の振り返りや調べたりしたことを表現するまでに時間がかかった。即興的に表現できる力が付けられるように、日頃から同じような活動を仕組む必要がある。

熊野町立熊野中学校

